

かんたんご報告 左手書字調査研究2：左手書字の特徴と筆記具の傾きの意味

論文「左手書字における非優位性と筆記具の傾き等の特性—書字・描画動作の分析を中心とした調査より—」

何を研究しようとしたか

左手で文字を書く子供に対し、右手で書くように変えるべきかという議論がありました。今でも左手で文字を書く人（以下、左手書字者）は、右手で書く人に比べディスアドバンテージ（以下、非優位性）があると考えられています。しかし、実際に書かれた文字を見ても、そのことは感じられません。そこで次のような点を明らかにしようと考えました。

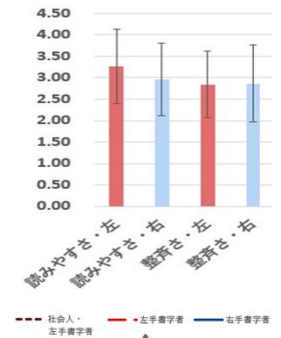
- ・左手書字者には、どのような非優位性があり、それをどのように解消しているのでしょうか？
- ・左手書字者の特徴、たとえば逆手という持ち方が指摘されますが、それはどうして生じるのでしょうか？

どのような調査をおこなったか

18歳から48歳までの左手書字者24人、右手書字者13人に協力していただき、文字や図形を書（描）いてもらう調査をおこないました。その際、紙や身体、筆記具の傾き、筆圧や筆順・空筆部の動き等の書字動作を測定しました。また、アンケートに答えしてもらいました。その結果を、2024年の左手書字調査研究1のデータと比較しながら考察しました

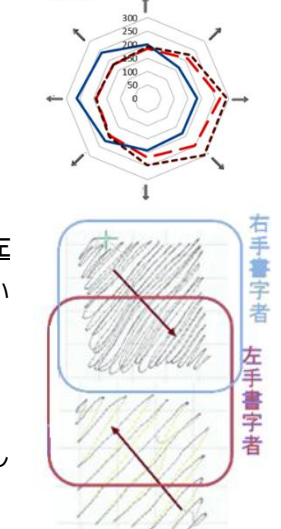
左手で書く人の文字と右手で書く人の文字は違うのか

書かれた文字について、文字の「読みやすさ」などを比較した際、左手書字者と右手書字者に差はありませんでした。また文字を書く「速さ」についても、差はありませんでした。今回の調査結果からは、これらが左手書字を右手書字に変える根拠にならないといえそうです。一方、何らかの方法で、非優位性を解消している可能性があります。（字を書いている手が汚れるというアンケート結果などからも、非優位性がないということではなく、これからの課題になります。）



文字や図形にどのような特徴がみられるか

左手書字の場合、横方向のストローク、すなわち横画などについて、押す動作となることと、右上がりに書きにくいことが指摘されてきました。しかし、筆圧の方向別測定結果は、左手書字者で（押す動作となる）右方向への筆圧が高いものの、右手書字者と同様の傾向を示しました。また四角い図形を塗りつぶす調査では、右手書字者は右上がりに、左手書字者は左上がりに塗りつぶすことを予想しましたが、左手書字者も右上がりに塗りつぶす人が多い結果となりました。これらは、横画の書きやすさと関係している可能性があります。

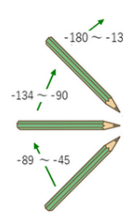


姿勢や筆記具の持ち方からわかったこと

上から見た筆記具の角度は、右手書字者の平均が約 60° なのに対し、左手書字者の平均は約 -120° でした。その傾向は筆圧や塗りつぶしの傾きと関係しており、非優位性を解消している可能性があります。

得られた成果として

読みやすさや書字速度は、左手書字を右手書字に変える根拠にはならない、という結果となりました。また左手書字の児童に対する筆記具の持ち方指導において、筆記具が体と逆側に傾くのを修正するのは、必ずしも適切だとはいえないという結果が得られました。書きやすく、非優位性を解消しやすい持ち方を選ばせてあげるべきだと考えます。また筆



	2025		2024	
	塗1A 傾き	8方向 筆圧	塗1A 傾き	8方向 筆圧
平均値	右上がり	最大	右上がり	最大
-180 ~ -135	89%	194	100%	183
-134 ~ -90	70%	228	92%	210
-89 ~ -45	25%	236	67%	266

記具の傾きを形成するのは、逆手などの手首の角度のみではなく、肩・肘・手首の関節の角度及び筆記具の持ち方によって複合的に形成されていると考えるべきであり、逆手という特徴のみにこだわり過ぎない方が良いと考えます。

今後、被験者数を増やすことなどで、より正確な結果とすることが課題です。また手が汚れる問題への積極的な対応、筆順の問題への対処、紙を傾ける問題の研究などをおこなうことと、左手書字の理想的な筆記具の持ち方などが課題として残ります。